



東京湾再生官民連携フォーラム 令和5年度 第3回企画運営委員会 議事メモ

1. 開催日時 令和6年3月6日(水) 13:30-15:00
2. 開催場所 AP 虎ノ門 B ルーム Zoom 利用による会議
(一部対面参加)web 参加者も含むハイブリッド開催
3. 議事次第
 - 《審議事項》
 - (1)フォーラム令和6年度事業計画・予算(案)
 - (2)令和6年度フォーラム第12回通常総会開催(案)
 - (3-1)東京湾大感謝祭2023 事業報告
 - (3-2)東京湾大感謝祭2023 収支報告
 - (4-1)東京湾大感謝祭2024 実施・予算 計画 (案)
 - (4-2)東京湾大感謝祭2024 実行委員会スタッフ&参加メンバー
 - 《報告事項》
 - (1)PT 活動報告
 - (2)令和5年度フォーラム事業報告(案)
4. 出席者 (敬称略)

來生議長、佐々木委員※、岡田委員※、山口委員※、斉藤委員、木村委員、工藤委員、竹山委員※、山縣委員、服部代理※、佐藤代理※、飯干代理※、木村委員※、渡邊代理、武井代理※、針谷代理※、和田委員※、朝倉代理※、石原代理※、細川代理※、加藤委員※、齋藤委員※、内田代理※、石川代理※、船奥代理※、
細川(事務局) 、26名出席 (このうち※印が Zoom にて参加)
5. 議事概要
 - 5-1 開会
 - (1)事務局:出欠および資料の確認
出席者名簿、議事次第を含めた配布資料の確認
 - (2)來生議長:開会の挨拶



5-2 審議

《審議事項》

(1)フォーラム令和 6 年度事業計画・予算(案)

【決定事項】

(1)フォーラム令和 6 年度事業計画・予算(案)は承認された。

【審議状況】

事務局: 審議資料 1 の説明。

フォーラム令和 6 年度の事業計画と予算について説明する。

第三期の東京湾再生行動計画 2 年目になり、副題の「～流域 3,000 万人の心を豊かにする東京湾」の創出～に取り組んでいく。官民連携フォーラムの活動を 3000 万人に届けるための広報普及活動を柱にしている。さらに東京湾を巡って脱炭素、気候変動といった新しい課題にも社会的な関心が起きている。これにも目配りをしながら進めていく。

項目に沿って令和 6 年度の活動計画を紹介する。

1. 情報(提供・仲介)の受発信・交流 (広報)

1. 1) 情報発信や交流において、政策提案は、令和 5 年度末に、令和 6 年度に向けて指標の政策提案をおこなった。今後もフォーラムの活動に沿って政策提案を実施していく。
1. 2) 広報の強化においては、東京湾再生・感謝祭デザインチームと広報コミュニケーションチームの二つを立ち上げている。デザインチームの元には、東京湾大感謝祭実行委員会を置き感謝祭の運営実施を担当している。二つのチームで実質的な議論を行い、広報戦略を検討しながら活動を行っていく。広報対象としては、市民、ファミリー層を中心にしている。
1. 3) 2023 年より新しい方針・組織で東京湾大感謝祭を行い、その経験を踏まえ、2024 年も同様に実施していく。世代を超えた交流、自治体相互の交流を図り、流域 3,000 万人に少しでも届く活動にしていく。
1. 4) 東京湾再生行動計画(第三期)のポイントでは、「活動の環の拡大」が掲げられている。例えば、河川で活動する様々な NPO があるが、海における活動とは繋がりが薄い。このようなことを踏まえて、「活動の環」に応えるよう意識していく。
1. 5) 東京湾を「体験」する環境が大切と捉えている。フォーラム PT 活動の中でも体験を重視している活動がある。この応援を大事していく。
1. 6) 情報を 3000 万人に届けるにあたり、デジタルツールとなる SNS 等を活用して広げたい。従来の東京湾 NEWS Letter も配信数を増やしていく。また、1. 7) フォーラム活動の記録冊子再編集、増刷して、PR に活用していく。

2. 交流・連携の活動

- 1) 再生推進会議との一層の連携を図り、「キャッチボールを継続して実施する。」政策提案などのフォローアップについて、官側と協議していきたい。PT 同士や PT メンバー間において、議論し現場実証を行っている。分野横断的で、現場実証的な取り組みを交流連携の活動の柱



- としていきたい。また官側では、多様な情報発信活動を行っている。これらを広く伝える連携ができないか検討していく。
2. 2) 海ゴミ清掃においては、さまざまな NPO 等が今まで取り組んできている。河川でのクリーンアップ活動も長い間行われてきている。こういった活動とも交流を進めていきたい。
 2. 3) 東京湾をフィールドにして環境改善等の活動を行っている方々に対して、フォーラムの視点から賞賛し検証するような表彰制度を検討していきたい。
 2. 4) 10 月 1 日を東京湾の日に定め、川柳&photo コンテストを実施してきている。これをさらに進めていきたい。
 2. 5) 市民活動と企業活動をつなげる CSR-NPO 未来交流会では、経験の豊かなセブン-イレブン記念財団や経団連自然保護協議会等の活動を参考にし、勉強しながらフォーラム独自の活動を検討していきたい。昨年度は東京湾大感謝祭会場に「海の相談コーナー」を設置し、市民交流を図った。その経験を踏まえて、今後も取り組んでいく。
3. フォーラムの会員は、現状、団体会員:139団体、個人会員:333人、これをさらに増やしていく。
 4. 政策提案は、PT 活動の成果を踏まえ実施していく。また指標の政策提案に関するフォローアップをおこなっていく。
 5. フォーラム内のさまざまな団体の活動を一つのテーブルに載せて、交流を図り、相互理解を重ねる活動を、東京湾大感謝祭、東京湾の日を結節点として行っていきたい。
 6. 調査研究活動は、PT を中心に積極的におこなってきている。新しい分野、例えば、脱炭素、プラゴミ等海洋汚染、に対する市民調査活動などについて、応援していく。PT 活動を通して、再生行動計画、フォーラムのプレゼンスを高めていきたい。また、PT の抱える課題対応については、積極的に応援していく。
 7. 今まで資金面においてセブン-イレブン記念財団様の支援に大きく依存している。別途、企業、団体等からの賛同を得るための工夫や改善を行っていく。
 8. 国や経済団体などの大きな枠組みでの活動に対して、フォーラムも参加し勉強をさせていただいている。社会の大きな流れに対する議論、大手企業が集まる機会の中で連携を図っていきたい。また東京湾の湾岸にある自治体がさまざまな活動を行っている。自治体の地域活動についても連携強化を図りたい。自治体イベント、お祭りについて、フォーラムはできるだけ参加をしていくなど、他の団体との連携を図っていきたい。
 9. フォーラムの後援・協賛等については、他の組織団体において同じような方向性があれば、積極的に後援・協賛等を行っていく。
 10. 相談窓口(コンサルティング)活動としては、市民活動、PT からの相談に対して、事務局として積極的に取り組んでいきたい。モニタリング PT 活動の東京湾環境一斉調査などでは、参加団体の生物採捕の届け出に対し支援等を行っていく。
 11. 啓発・人材育成の面では、さまざま世代の方に仲間になっていただき、それぞれ独自に力を発揮できるよう支援していく。
 12. その他になるが、デジタル化、DX 化の時代を迎え通信環境を整え取り組んでいきたい。



以上が令和6年度の計画になる。

8pは年間活動のスケジュールになる。様々な取り組みが年間の活動となっている。これらの活動の実施予算が9pになる。

令和6年度予算は、収入の部としてセブン-イレブン記念財団様から400万円ほどの助成、さらに独自に寄附金収入などを予定している。繰越金については、決算により変更があるので、ここでは安全を見てゼロとしている。収入は、4,099,339円になる。

支出については、セブン-イレブン記念財団様の助成により活動する部分とそれ以外の資金による活動と区分している。事務局経費としては人件費と定常的な活動費に充当する。メールの配信、消耗品等に加え、事務局が独自に行う企画等の支出でフォーラム活動費として、交流会の謝金、会議費、などを計上している。助成金額相当3,993,339円の支出になる。

助成対象以外の活動費には、会議のお茶代などや、展示パネル等運搬用のタクシー代などが計上されている。これら支出に対しては、「その他の収入」から充当する計画となっている。

來生議長：

令和6年度事業計画・予算(案)のご意見、ご質問がありましたらお願いします。

国土交通省 港湾局 海洋・環境課 飯干代理：

令和6年度活動内容について、資料3pの2. 交流連携活動の箇所で3番目に「表彰制度の検討」とあるが、みなと総合研究財団では、あらたに「全国海の再生・ブルーインフラ賞」を創設して、先日、第1回「全国海の再生・ブルーインフラ賞」の受賞取組が決定した。

これとは別に、新たに東京湾を対象とした表彰制度を検討するということか？

事務局：

フォーラム独自の視点での表彰ができればと思っている。地元で地道に活動している、また企業でユニークな活動をされているかたなどを対象に表彰ができればよいと思う。既存の表彰制度や全国海の再生・ブルーインフラ賞などを勉強しながら、検討していきたい。

飯干代理：

はい、承知いたしました。

経団連自然保護協議会 山口委員

令和6年度の事業・計画の中で広報の強化は良い取り組みと感じている。6pの他団体との連携の中で、「国連生物多様性10年日本委員会」は2021年10月に終了し、現在は環境省の基に、「2030生物多様性枠組実現日本会議」(J-GBF)が後継組織で設立されている。



事務局:

ご指摘ありがとうございます。修正します。

千葉県 環境局 環境保全部 内田代理:

政策提案について、指標の検討等あるが、令6年度では、どんなスケジュールで進めていくのか?

事務局:

政策提案が「できる、できない」の判断は、PT の議論熟度や活動の進捗によるが、令和6年度は、生物生息場 PT から政策提案が予定できればと思っている。

4p~6p記載の指標の項目については、国の政策と関連して、新しい指標について、「官側がどのように活用していくか」、さらに「フォーラムへの指標に関する要望がさらにあるのか」、「協力・応援ができるか」など、提案した指標のフォローアップ活動になる。

千葉県 環境局 環境保全部 内田代理

はい、分かりました。

來生議長:

基本は政策提案を目標に活動している各 PT の準備の進捗次第で、PT 内でまとまったら、フォーラムの政策提案に移していく形にしている。事務局の説明は、今後、提案が出そうな点を説明した。他に、ご質問はあるか、予算についてはどうか、予算は昨年度、並びで作成している。

他ご発言がないようなので、フォーラム令和6年度事業計画・予算(案)は承認をいただいたこととする。

次の審議事項に移る。令和5年度総会議事次第(案)について、事務局から説明をお願いする。

《審議事項》

(2)令和6年度フォーラム第12回通常総会開催(案)

【決定事項】

(2)令和6年度フォーラム第12回通常総会開催(案) について承認された。

【審議状況】

事務局:審議資料2の説明。

令和6年度フォーラム第12回通常総会開催(案)について、日時、会場、参加の形式について審議、ご承認をお願いする。

日時は、令和6年10月12日(土)、会場は、みなと総研 3F 会議室、参加形式は、Zoom 利用によるオンライン参加で一部運営会場参加にしている。議題については、改めてご提案する。



來生議長：

承認とする。

次の審議議題 3-1 を山縣広報デザインチーム長・感謝祭実行委員長にお願いする。

《審議事項》

(3-1)東京湾大感謝祭 2023 事業報告

(3-2)東京湾大感謝祭 2023 収支報告

【決定事項】

(3-1)東京湾大感謝祭 2023 事業報告、(3-2)東京湾大感謝祭 2023 収支報告は承認された。

【審議状況】

東京湾大感謝 山縣実行委員長/企画運営委員：

東京湾大感謝祭 2023 は、10 月 14 日(土)～15 日(日)で実施した。2023 年度は、組織体制の変更やスタートが遅れた点もあったが、皆様のご支援・ご協力で実施できた。会場がコンパクトとなり、2 日間で 3,800 名の入場者があった。内容的にはバラエティに富んだ良い結果となった。

東京湾全体の自治体の方にもできるだけ参加を呼びかけ、いくつかの自治体から協力を得られた。まだまだ足りない部分もあり、資金的にも苦労した点もある。2024 年は、経験を踏まえて、早めのスケジュールを組み、委員会の中で議論し、関係機関のご協力を得ていきたいと思う。

詳細は東京湾大感謝祭事務局長から説明する。

東京湾大感謝祭 細川事務局長/企画運営委員：審議資料 3-1、3-2 の説明

東京湾大感謝祭 2023 の開催状況、その収支について報告しご承認をいただきたい。東京湾大感謝祭 2023 は、従来の感謝祭 PT、実行委員会の体制を変えておこなった。

開催にあたり、

- 1.規模拡大の追求は行わない。身の丈に合った規模での実施。それに見合った予算にする。
- 2.東京湾岸自治体の参加促進を図る。
- 3.様々な世代の方の参加促進を図る。
- 4.感謝祭開催両日だけではなく各地で開催しているイベントと連携して広がりを持たる。

これら 4 つの共通の意図のもとに開催し、資料 3-1.末尾の写真にある実施ができた。来場者数は 3,800 人、出展小間数が 40 弱、協賛団体が 15 社、ステージ プログラムの「東京湾地元自慢」では、いろいろな自治体に登壇いただいた。

連携イベントについては、東京湾フェリー主催「東京湾周遊特別クルーズ」を開催した。周遊



クルーズは、東京湾の日・10月1日に行い、東京湾海上に於いて、東京湾の海の現状を見ながら解説を聞くことができた。また、例年の通り「東京湾シンポジウム」と連携を行い、「ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉（10/14.15開催）」とも連携を図った。

資料の写真を見ていただくと、いろいろな世代の活動の発表がステージでおこなわれた。開催の意図とした・世代の広がり、自治体の参加、連携イベントに実績をつけた。

(3-2)東京湾大感謝祭 2023 収支報告については、収入 13,619,500 円で半分が出展料、半分が協賛金となっている。出展協賛企業の方々に感謝する。

支出は、人件費、会場設営、記録、広報宣伝費用など、イベントに必要な事項に 13,000,000 円程度使用した。実行委員会独自の参加者誘導管理費等に 700,000 円程度を使用している。従来の赤レンガ広場での開催規模と比べると1/4程度の収支規模となっている。

來生議長：

今年度の東京湾大感謝祭事業、収支報告へのご質問をお願いします。

新しい体制で実行委員会、事務局のご苦勞を掛け、議長からも感謝する。質問なしのようなので続けて、東京湾大感謝祭 2024 年の説明をお願いします。

《審議事項》

(4-1)東京湾大感謝祭 2024 実施・予算 計画 (案)

(4-2)東京湾大感謝祭 2024 実行委員会スタッフ&参加メンバー

【決定事項】

(4-1)東京湾大感謝祭 2024 実施・予算 計画 (案)、(4-2)東京湾大感謝祭 2024 実行委員会スタッフ&参加メンバーは承認された。

【審議状況】

東京湾大感謝祭 細川事務局長：審議資料 4-1、4-2 の説明

東京湾大感謝祭 2024 実施計画 1～4までになるが、早めの出展協賛案内の実施、経験を踏まえて収支バランス、連携イベントをさらに拡充、自治体の港まつりなどとのつながりなどの連携を図りたい。委員会参加メンバーは、各々得意な分野での役割分担を意図した。

予算計画に於いて協賛企業数を増やし、2023 年と比べ 3,000,000 万円のアップを計画している。支出に関しては、PT や NPO への応援、自治体のお祭りなどとの連携費用、企業協賛の増加のための広報ツールの検討を図る支出計画としている。事務局経費・3,000,000 万円とし、固定費の他、委員長、副委員長の判断で少し柔軟に使えるよう収支計画を立てた。

連携イベントを広げるのは、最初はゆるい連携を考えていて、イベントの開催日を相互に知らせるなど情報共有を図ることから始めたい。なお、自治体の方、地域の方と連携を図る場合には、国、自治体の担当の方のご協力は、不可欠で是非ご支援ご協力をお願いします。

このようなことを踏まえて、資料 4-2 の分担を考えている。

予算規模は昨年並みだが、収入は 16,600,000 円で、出展展示の小間(ブース)単価をアップ、



協賛については、企業協賛を応援するメニューをあらたに追加している。

支出については、2023年並みを計上している。新しい企画の実現の費用、連携イベント用の費用、雑費等を想定している。

参加メンバーの表では、自治体の方は、資料4-2記載していない。感謝祭が自治体から後援、協力をいただくときに、ご担当の方がスムーズな事務処理ができるよう、さらに準備にご尽力いただき、議論や情報の交換に参加しやすいよう事務局としては配慮したい。

來生議長：

ご質問、ご意見を願います。特にご質問ないので承認とする。

続いて、PTからの報告をお願いします。最後までPT報告を行いまとめてご質問、ご意見を受けることでお願いします。

《報告事項》

(1)PT活動報告

モニタリングPT（古川PT長）報告資料1-1

資料は東京湾環境一斉調査の結果。毎年発行している「東京湾環境マップ」第18号になる。

環境マップは東京湾再生推進会議モニタリング分科会とワークショップをもって内容を検討している。昨年ワークショップを行い取りまとめた。現状、貧酸素の領域が広がっている。昨年は富津のほうまで広がっていたのが、今年あまり見えてないように思えるが、実は測点がなかったもので、分かっていない状況となっている。

東京湾奥、三番瀬についても測点が打たれていない状況で、分布図が書かれている。一斉調査の目的であるなるべく細かく沢山の点でデータを取り、実態を明確にしていくことが少し難しくなっている。再生推進会議と共同しながら東京湾の現状をしっかりと追跡できるようなモニタリングPTでありたいと思う。

東京湾を評価するレポートカード作成の議論を始めている。そのため様々な指標についてこのマップで紹介している。この議論を進めていくため「江戸前勉強会」を継続し、2月18日には、グリーンインフラネットワークジャパンのミーティングの中で、特別会を開催した。参加者からは今後の「評価」について賛同をいただいている。この活動について2024年度も継続していく。

生き物生息場づくりPT（佐々木PT長）報告資料1-2

令和5年9月以降の活動および今後の計画について報告する。

10月14、15日、東京湾大感謝祭2023においてパネル展示を行っている。10月26、27日、生き物生息場づくりPT合宿を行った。26日に千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所において、生き物生息場づくりPT会議を開催した。合宿は時期的なこと、周知期間が短い点などあり参加人数は多くはないが、密度の濃い議論ができた。



議論の中で、千葉県水産総合研究センターで検討されている、「千葉県沿岸海域に存在する自然のマウンド地形を含む、防潮堤前面近傍の水底質環境の調査検討状況」が報告された。

マウンド地形は頂部では砂が主体となるが、周辺ではヘドロになっているとか、それに応じて生物相も違うことが良くわかるようになってきた。微地形は非常に重要で、意見交換を行っている。27日には船に乗り実際の現場に行き、自然マウンド地形の海域において、海底地形の把握、底質採取、および水質調査を実施した。

今後、政策提案を視野に、微地形などを利用しながら千葉の沿岸を場として、微地形でマウンドのようなのを沢山作っていき、つなげていき、例えば、「砂の海底が必要な生き物に貧酸素が迫ってきてもより逃げやすくなるなどできないか」などを検討していく。

政策提案は2024年中に結び付けるには難しいと思っているが、引き続き検討していく。

12月26日に、毎年行っているマコガレイ産卵場のモニタリング調査を実施している。毎年実施することが重要で、マコガレイ産卵は確認できている。結果はまだ出てないが、今後楽しみにしたい。

今後の計画については、恒例となりつつあるが、3月31日マコガレイ釣り調査を予定している。令和6年度も引き続き、東京湾の生息場に係る見学会、調査、新たな政策提案に向けた検討を進めていく予定である。

指標PT（岡田 PT 長） 報告資料1-3

今年度の活動は、第三期の指標を提案した。9月30日 総会に政策提案を提出し、12月5日 東京湾官民連携フォーラムから東京湾再生推進会議に提案を提出したところとなる。今回の指標は、資料の表1に示す7つの指標になっている。

来年度、4月から続きの議論を再開の予定にしている。議論が時間的に不足していくつかの項目は指標までもちあげられず、積み残している。資料 2.今後(来年度)の計画の中の(ア)～(エ)関連する指標がまだまだ議論は必要と思う。

来年度はこの項目の議論を重ね、できれば2025年度には追加の指標を提案の形にしたい。

来生議長：

江戸前ブランドPT長、東京湾の窓PT長、本日ご欠席のため事務局から報告をお願いします。

江戸前ブランド育成PT(牧野 PT 長/事務局代理報告) 報告資料1-4

PTのメンバーはさまざまな活動を行っている。資料では、4つの組織、大日本水産会魚食普及推進センター、JF全漁連、JF千葉県漁連、横浜市漁業協同組合が柱になって活動しておられる。東京湾の水産物のPRを目的として、様々な活動を推進している。

東京湾の窓PT（芝原 PT 長/事務局代理報告） 報告資料1-5

東京湾の窓PTでは、生物調査研修会など会合を開き勉強会を行っている。また東京湾大感謝祭2023では、ブースの出展などを行い、日本湿地学会大会エクスカッションなど学会にむ



けての活動をおこなってきた。

令和6年度は、まだ十分に検討されていないが、Facebookを活用してグループページ「ぐるっと東京湾！」の情報発信活動や東京湾大感謝祭 2024 出展を計画している。

多摩川河口干潟ワイズユースPT(竹山PT長) 報告資料1-6

基本的には、春と夏に調査を実施している。PTだけではなく多摩川の上流で活動している大師河原干潟館のメンバーや大田区環境マイスター、周辺大学の学生、そして今まで調査している民間の方等と一緒に実施している。東京湾大感謝祭 2023 に出展し、多摩川にいるカニなど生き物を展示し、タッチプールのようなイメージで子供たちに向けて展示を行った。

令和6年度の活動では、引き続き定期的な調査を行い、データ結果を整理して周辺自治体に向けて成果の発表を行っていききたい。

來生議長：

6つのPTの活動報告をいただいた。全体を通してご意見・質問をお願いします。特にないようなので、来年度に向けてPT活動よろしくをお願いします。

最後、令和5年度のフォーラム事業報告について事務局をお願いします。

事務局説明

報告資料(2)で令和5年度のフォーラム事業報告案を参考に配布している。本日の審議事項ではないが、令和6年度の第1回企画運営委員会に置いて審議となる。素案を示したところになる。一部未完成になるが、後程ご覧いただき、お気づきの点があればご指摘をお願いします。

來生議長：

以上で予定していた審議、報告になる。全体でご質問があればをお願いします。特にないようなので、令和5年度第3回企画委員会を終了する。

5-3 閉会

以上